

公開制作 vol.2 佐藤朋子 ^{キツネ} 狐・^{ツル} 鶴・^{ウマ} 馬

会期：2022年5月28日（土）～2022年9月11日（日）

制作期間＝2022年5月28日（土）～2022年8月16日（火）

展示期間＝2022年8月18日（木）～2022年9月11日（日）

会場：1F オープンギャラリー

公開制作は、アーティストが一定期間美術館に通い、滞在して作品を制作するプログラムです。アーティストは制作の様子を公開し、完成した作品の展示を行います。また会期中はワークショップやアーティストトークなどのイベントも開催します。来館者が現在進行形で作品制作過程を見学し、イベントを通じてアーティストと交流を持つことで、アートをより深く知り、身近に感じていただくことを目的としています。昨年度の初回に続く第二弾となる2022年度は、長野県長野市出身の気鋭作家である佐藤朋子（さとう・ともこ）を招へいします。レクチャーパフォーマンスを

主体に「語り」による表現を実践する注目の若手作家です。

佐藤は、日本が辿ったいびつな近代化への道のりや、大文字の歴史からこぼれ落ちてしまった出来事が物語る歴史の複数性への関心を寄せ、各地に残る伝説や遺跡などへの興味から作品を制作しています。そして、史実の調査過程から浮かび上がる事柄を複眼的につなぎ合わせ、フィクションとドキュメントを行き来する物語を構築し、主に「レクチャーパフォーマンス」の上演により作品を発表しています。



『The Reversed Song, A Lecture on Shiro-Kitsune (The White Fox)』2018

展覧会概要

キツネ ツル ウマ

『公開制作 vol.2 佐藤朋子 狐・鶴・馬』

会 期： 2022年5月28日（土）～2022年9月11日（日）

制作期間＝2022年5月28日（土）～2022年8月16日（火）

*制作期間中、作家が美術館に滞在していない期間があります。作家の滞在日は当館ホームページにてご確認ください。

展示期間＝2022年8月18日（木）～2022年9月11日（日）

会 場： 長野県立美術館 1F オープンギャラリー 観 覧 料： 無料

開館時間： 9:00～17:00（展示室入場は16:30まで） 休 館 日： 水曜日

主 催： 長野県、長野県立美術館 担 当： 茂原奈保子・山下樹里

※新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により変更が生じる場合があります。最新情報はホームページをご覧ください。

作家略歴

佐藤朋子（さとうともこ）

1990年長野県長野市生まれ、神奈川県在住。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。

主な制作に、『しろきつね、隠された歌』（2018）、『瓦礫と塔』『ふたりの円谷』（Port B 東京修学旅行プロジェクトにて上演、2018-19）、『103系統のケンタウロス』（2018）、『MINE EXPOSURES』（2019）、『TWO PRIVATE ROOMS- 往復朗読』（青柳菜摘との共作、2020-）、『オバケ東京のためのインデックス』（2021-）。



佐藤朋子

今回の公開制作では、これまで多彩な作品を手掛けてきた佐藤の制作のなかから、「人の近くに存在してきた」という共通項をもつ動物「狐」、「鶴」、「馬」を取り上げた作品に絞り、これらのリサーチを進めていきます。このなかでも特に、長野でのリサーチをきっかけに始まった「狐」に主眼を置きます。「狐」のプロジェクトは『しろきつね、隠された歌』として2018年に初演された作品ですが、佐藤が「一度発表した作品でもリサーチを深めることで作品が育っていく」と語るように、制作期間中に「狐」のアップデートを行うことで作品を育てていきます。同作は8月14日（日）にレクチャーパフォーマンスとして上演し、展示期間中にこれを撮影したものを映像作品として会場に展示します。

なお制作期間中、会場には佐藤が制作で用いる資料を設置した「資料室」と、佐藤が実際にリサーチ等の制作に取り組む「スタジオ」を設けます。絵画や彫刻のようにいわゆる「モノ」を制作するアーティストのアトリエとは様子の異なる制作場所（＝佐藤の場合「スタジオ」と呼ぶ）を来館者に見学していただくことで、美術における多様性を提示することも目指します。

●見どころ

- ・ 普段公開することがない、アーティストが制作に用いる資料を閲覧できる
- ・ 絵画や彫刻などのような「モノ」の作品から想起されるアーティストのアトリエとは全く異なるタイプの制作場所（＝スタジオ）を見学することができる
（今年度招へいする佐藤朋子はモノを手掛けるアーティストではなく、最低限PC（＋電源、wi-fi環境）と机・椅子だけあれば制作ができる）
- ・ 現在進行形で作品がアップデートされていく様子に立ち会うことができる
- ・ 一作一作の発表が注目される佐藤のレクチャーパフォーマンスを見ることができる
- ・ 多彩なイベントを予定しているため、アーティストの活動に多面的に触れることができる



『瓦礫と塔』2018 ©Masahiro Hasunuma



『オバケ東京のためのインデックス 序』2021
©シアターコモンズ'21/撮影：佐藤駿

お問い合わせ・資料リクエスト先：長野県立美術館 広報・マーケティング室
TEL：026-232-0052 / FAX：026-232-0050 / E-MAIL：nam-pr@naganobunka.or.jp

●イベント(いづれも無料)

※イベント詳細については美術館ホームページ (<https://nagano.art.museum/>) をご覧ください。

①レクチャーパフォーマンス

「狐」にまつわるリサーチに基づくレクチャーパフォーマンスを上演します。

日時：8月14日(日) 11:00～/15:00～

会場：長野県立美術館 本館1F 交流スペース

定員：各回30名 要申込

②アーティストトーク

作家の姜信子氏を迎え、佐藤の作品のベースにあるリサーチを巡り、互いの関心の重なりについて話します。

日時：8月27日(土) 14:00～

講師：姜信子(作家)、佐藤朋子

会場：長野県立美術館 本館1F 交流スペース

定員：30名 要申込

③ワークショップ「文読むスクリーン—《往復朗読》からつくる映像」

互いの朗読を映像でラリーする「往復朗読」。読むものを選び、読み、読む様子を撮ることを実践します。

日時：1日目 8月6日(土) 10:00～11:30

2日目 8月7日(日) 13:30～15:30

※2日間にわたるワークショップです

講師：青柳菜摘(アーティスト)、佐藤朋子

会場：長野県立美術館 本館3F レセプションルーム

定員：10名 要申込

お問い合わせ・資料リクエスト先：長野県立美術館 広報・マーケティング室

TEL：026-232-0052 / FAX：026-232-0050 / E-MAIL：nam-pr@naganobunka.or.jp